

2014年度 早稲田大学 政治・経済学部 国語解答例

(一)

〔出典〕「甲」(古文)『秋風抄』序。一部和歌の省略がある。「乙」(漢文)白居易「新豊折臂翁」

〔解答〕

甲

問一 A ロ B ニ G ハ 問二ロ 問三ロ 問四イ

問五 詞 問六 E ハ F ロ 問七ハ 問八ニ

乙

問九ロ 問十ロ 問十一ハ 問十二イ 問十三鬼

(二)

〔出典〕谷崎潤一郎「陰翳礼讃」の一部。

〔解答〕

問十四イ 問十五ハ 問十六 2 のきば 5 励行 問十七ホ

問十八 B ニ D ハ 問十九 C 風 E 千 問二十ホ

問二十一ハ 問二十二イ

(三)

〔出典〕齋藤純一『政治と複数性』 問題文途中に多くの省略がある。

〔解答〕

問二十三 見えにくい ↓ 見えやすい 問二十四 ホ

問二十五 B ハ C ハ E へ 問二十六 る必要がある。

問二十七 ハ 問二十八 ロ・ひるがえ(つて) 問二十九 ロ 問三十ハ

問三十一 二つの連帯のあるべき関係とそうでない関係を問うことであり、それらを相互に排他的な

関係に置くことではない(五十一字)

〔講評〕

(一)が古漢融合問題、(二)・(三)が現代文の評論という形式は昨年度と同じ。

(二)甲の古文は、和歌集の序文が出題され、昨年度は出題されなかった、和歌に関する問題が出題された。(一)乙の漢文は、昨年引き続き漢詩が出題されたが、ほぼ独立した漢文の問題として処理することができる。甲、乙ともに知識問題の、問六、問十三が難しい。

(二)は、比較的読みやすい文章。設問は、漢字、語句の意味、文学史の知識問題と、文章の主旨を読み取ることが求めている問題が中心になっている。

(三)は、今年度の法学部と同じ出典からの出題となった。抽象的な文章であるが、法学部の問題よりは、具体的な状況がイメージしやすく、設問の選択肢も、本文との対応関係が掴みやすいものになっている。ただし、問三十一の記述問題は、四十五字以上にまで字数を引き延ばすが、なかなか難しい。

2014 年度 早稲田大学 政治・経済学部 英語解答例

I 1-(e)(b)(f) (並べ替えた文は次のとおり→gets to work on the toughest problems)

2-(d) 3-(a) 4-(c) 5-(a)(d)(b)(c) 6-(b) 7-(b)

II 1-(d) 2-(c) 3-(e) 4-(c)(a)(d)(b) 5-(c)

6-(e)(b)(c) (並べ替えた文は次のとおり→as opposed to being lost in)

7-(b)

III 1-(g)(f)(c) (並べ替えた文は次のとおり→draws upon studies that compare levels of)

2-(b) 3-(e) 4-(a) 5-(c) 6-(d)(c)(b)(a) 7-(d)

IV 1-(c) 2-(b)

3-(f)(c)(a) (並べ替えた文は次のとおり→suggest you look on the back)

4-(c)(f)(b) (並べ替えた文は次のとおり→expect me to wait up for you)

V (解答例)

I disagree this statement. Firstly because if we had to live forever, our lives would be so tedious that we would come to have no idea what to do. Secondly because immortality implies that population will become enormously large, which makes our daily life extremely hard. I don't feel confident that I will be able to put up with eternal painful life.

※コメント 例年通り、難度が高い。特に文の並べ替えには慎重さを要する。また、語句を並べ替える作文も、容易ではない。長文の内容の難易度についても難易度の変化は特に見られない。語彙レベルも高い。